アメリカのベネズエラ攻撃～SNS時代のジャーナリズムを考える～

米陸軍特殊部隊「デルタフォース」による急襲とマドゥロ大統領夫妻拘束という前代未聞の事件は世界中のSNSを騒がせた。マドゥロ大統領の拘束は、軍事や外交のニュースであると同時に、SNS時代のジャーナリズムが内包する「可能性」と「危険性」を考えるきっかけを作ってくれた。

SNS時代のジャーナリズム「可能性」

誰がみても明らかな国際法違反の軍事行動及び大統領の拘束という国際人権規約違反。ところが、各国政府首脳は強大な軍事力を持つアメリカを非難できないでいた。勿論、その中に日本も含まれている。しかし、世界各国の国民は政府と違って、アメリカの横暴を許さず、SNSと言う発信媒体を使ってアメリカの横暴をストレートに非難した。ヨーロッパ各地で、アメリカのニューヨークでも軍事行動とマドゥロ大統領拘束に反対するデモが沸き起こった。米陸軍特殊部隊「デルタフォース」を使った極秘作戦だったが、多くの一般市民がベネズエラの映像を世界に発信し、それらは瞬く間に拡散されていった。

民意が政府に反映されない民主主義はもはや機能していないと言わざるを得ないが、SNSのおかげで一般市民のデモでの声、ネット上での声は世界に広まった。SNSジャーナリズムは大手メディアが政治的な思惑で隠したいこと、言いにくいことを発信する力も持った。日本のテレビの解説者が歯切れ悪くもごもご言う中、SNSでは「国際法違反でしょう」とうい意見がストレートに発信された。

SNS時代のジャーナリズム「危険性」

誰もがスマホ一つとネット環境さえあれば発信者になれるSNS時代。世界市民皆がジャーナリストのように発信できる時代ではあるが、ジャーナリストでない一般市民の発言には悪意があったり、フェイクがあったり、事実かどうかのファクトチェックが難しい。そして、意図的に誤報を流し、世界を混乱させることもできてしまう。
今回のベネズエラ攻撃とマドゥロ大統領拘束ではベネズエラ人がもっと喜んでくれるとアメリカは予想していた。マドゥロ大統領が清廉潔白であるかどうか、麻薬カルテルとの付き合いがあるかどうか、それらがあったとしても主権国家に対する突然の空爆を多くのベネズエラ人は許さなかった。

麻薬密輸犯の逮捕と貧困に苦しむベネズエラ人の解放と言う大義名分を誇示したり、アメリカは過去の映像と生成AIを使ってベネズエラ国民が涙して喜ぶディープフェイクの映像を発信した。これは瞬く間に拡散され、日本でもネトウヨの人たちが真偽を確かめず拡散していった。残念なことに日本の著名人もこのイーロンマスクもPRしたフェイク動画にまんまと釣られ、誇らしげにコメントをしている。

～フェイク動画を見たX上のコメント～
【VEベネズエラの人々が膝をついて泣きながら、「アメリカに感謝します。私たちを解放してくれて、英雄ドナルド・トランプ！ありがとう。」と、ニコラス・マドゥロ大統領からの解放を感謝しています。メディアはベネズエラに強硬なトランプを批判しますが現実は逆ですね⁉️🤔】

世の中には強者がたくさんいて、たった１日で多くのフェイク動画が炙り出された。その１日でものすごく拡散されたフェイク動画は、その役目をしっかり果たしたのだが。

左記のコメントの主は、多くの人が「それは生成AIで作られたフェイク動画ですよ」とコメントしているにも関わらず、ツイートを訂正することもなく、消すこともしていない。ある面の確信犯だと思われる。
嘘の情報が瞬く間に拡散されてしまう、これがSNS時代のジャーナリズムの「危険性」だ。

言論の自由は大切なので、安易にアカウントをバンすることはおすすめできないが、フェイクと知らずに拡散して、フェイクとわかった時点で訂正、お詫び、削除、これらをできないアカウントはバンさせれるような法律になっていくと予想される。一方で、SNS運営会社が属する国の批判記事があったから、と言う理由でアカウントがバンされることは決してあってはならない。

ベネズエラ攻撃のニュースをよく見ていた人はどのニュースを信じたら良いのか？という疑問にあたったと思う。SNSはフェイクニュースで溢れかえっている、テレビのニュースは本音を語らない。より多くの情報を得たいと思えばネット上のニュースに頼らざるを得ない。
今回の事件で個人発信のニュースや映像が最も多かったのはXだろう。
Xに書かれているどの記事もそれっぽいし、映像もどれがフェイクなのか素人が見極めるのは困難。

それはジャーナリストである僕も同じ。
ではどうするか？

SNS時代の今だからこそ立ち返りたい、ジャーナリズムの原点

現場、ベネズエラにいる人で、リツイートではない、第一次発信者のニュースを見る。
世界中にいるフリージャーナリストたちの意見を聞き、事実であると思われるニュースをピックアップしていく。

ジャーナリズムの基本は現場の声を拾い上げること。
　事件後でも構わない、多くのジャーナリストがベネズエラへ行き、現場の声を聞くことが一番。
日本のテレビニュースが信用されなくなってきたのも当然だと思う。紛争地に行かず、テレビ局の椅子に座ってニュースを作っているのだから。

　現在、日本の大手メディアのスタッフで戦地に立った人は殆どいない。戦地に立ったことがなく、戦地の空気感がわからない人が外電からの映像を元にニュースを作り、あたかも現地を知ったかのように解説する。
たった１日でも良い、現場に立てば、伝えたいこと、伝えなければならないことが見えてくる。

　かつて、アフガニスタン戦争でもイラク戦争でも僕は負ける側に潜入して現地からレポートを送った。
アメリカの公式発表では軍事施設のみのピンポイント爆撃だった。日本にいる大手メディアの人たちはその発表を信じるしかない。
ところが、日本人である僕が現場にいて、民間人の犠牲をレポートしたら「事実」を伝えざるを得なくなる。

日本の大手メディアが紛争地（現場）に行かなくなって何年が経過したことだろう？

　日本人が現場からレポートを送らなくなったことに気が付かず、何の疑問も持たない日本人が多い。
今回、CNN、NBC、BBC、CBCは現地から生のレポートを送っている。報道に携わっている人たちなら今回のアメリカの軍事行動は予測できた事件。流石に大統領拘束までは予想できなかったと思うが。

　各社、カラカスに支局員を送っていた。
当然日本は報道する気なし。CNNのカラカス取材班は、航空機の音と都市規模の停電を即座に伝え、メアリー・メナは何時間にもわたってライブで状況を更新し続けた。
NBC、BBC、CBCは、現地在住のアナ・バネッサ・エレーロを中継に起用し、現地の情報を伝え続けた。
複数のメディアが同じ場所から同時多発的に声を上げたことで、情報の比較が可能となった。

これが報道、これが生のニュース。

DAVID GILBERT　POLITICS　JAN 3, 2026 1:14 PM

Disinformation Floods Social Media After Nicolás Maduro's Capture

From seemingly AI-generated videos to repurposed old footage, TikTok, Instagram, and X did little to stop the onslaught of misleading posts in the wake of the US invasion of Venezuela.

2026年1月3日,WIRED掲載記事から引用

日本のジャーナリストが現場に立つ日は再びくるだろうか？
WIREDのデビッド・ギルバート氏はAI生成と見られる動画や、過去映像の再利用がSNS上に溢れていると指摘。

TikTok、Instagram、Xはいずれも十分な抑制策を打てず、情報の真偽は受け手に委ねられることになってしまった。今回をきっかけに各社ディープフェイクを止める手立てを模索することになるだろう。
事件は現場で起きている。
現地に赴く、現地の状況を地道に取材して「事実」の断片を集める。それが「真実」に近い報道をなす唯一のルートだと思う。

久保田弘信

The Real Report
発行元　合同会社G&G Marketing　TRRサポートチーム
問い合わせ先　support@giveandgiven-marketing.com
発行責任者　坂田 兼一